



Title	エスノグラフィの研究データ管理入門：オープンサイエンス時代のなかで
Author(s)	神崎, 隼人; 森田, 敦郎; 韓, 智仁 他
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/104332
rights	This article is licensed under a Creative Commons Attribution-ShareAlike 4.0 International License.
Note	本教材の作成にあたって、綾部真雄先生、小田博志先生、木村周平先生、佐本英規先生、中空萌先生、深山直子先生、村津蘭先生（五十音順）の諸先生方にはヒアリングの機会をいただきました。厚くお礼申し上げます。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

講義4

エスノグラフィを作成する：データ分析、整理、共有

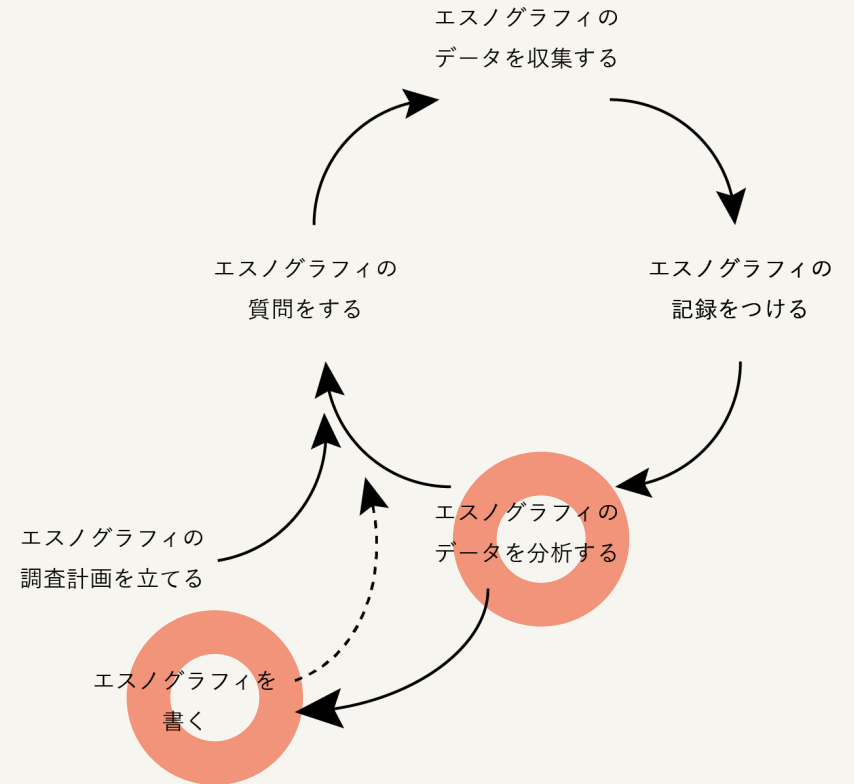
エスノグラフィの研究データ管理入門：オープンサイエンス時代のなかで

エスノグラフィを作成するなかでの研究データ管理

フィールドワーク後、エスノグラフィを作成する(講義1)

⇒ 様々な研究データに囲まれ、それを取り扱う実践的な段階

☆ 多種多様な研究データ間のリンクを作り出して初めて、文化の翻訳=エスノグラフィが完成する。



研究データの種類

- ①フィールドで収集・取得・作成したデータ（講義3）
- ②分析段階で新たに生み出されるデータ
- ③エスノグラフィの執筆に使われるデータ

②分析段階で新たに生み出されるデータ

1) コーディング用のフィールドノート

〈コーディング用のフィールドノート〉と〈コード表〉

清書版フィールドノートのコピーを作成し、コーディング用のデータ
(Word、PDF)を用意する(講義3)

コーディング作業では「書かれた順序」で読み込み「初期の頃の理解と
後になってからの理解とのあいだの対比」に着目する

オリジナルデータを日付やトピックでソートして管理しておくことが重要

②分析段階で新たに生み出されるデータ

1) コード表

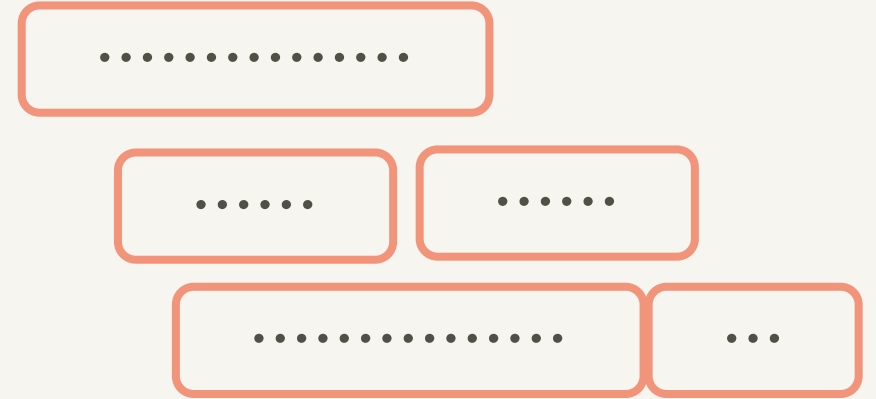
出来上がったコードはコード表で管理する

- ①別の紙媒体
- ②Wordの「コメント」機能
- ③データベースのキーワードやタグ付け機能

※検索性の高いExcel等でコード表を作成しておくとう便利

※コードは、階層構造「コード>サブコード」で操作可能であることが望ましく、その点ではWordは厳しい。

分析は個人のみならずチームや調査協力者と共同する場合もあるので、オリジナルデータとコーディング用データを分けておくことが重要



②分析段階で新たに生み出されるデータ

2) 初期のメモ

2) 〈初期のメモ〉: フィールドノーツの分析中に作る文書
データから生まれた洞察や発想、コード、理論的アイデア
を含むもの

* **フィールドノーツの参照箇所が明らかになるように**技術
的に連結する必要がある

- ・フィールドノーツのコピー版を作成しWordコメント機能を用
いる
- ・紙媒体の場合はカードを活用する



②分析段階で新たに生み出されるデータ

2) 初期のメモ

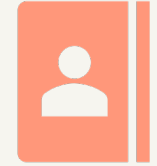
・フィールドノートメモ、メモメモ、メモコードの関連を見えるようにする必要がある。

・分析が進むにつれ、フィールドノートから、トピックに関連する部分を切り離して断片化し、並び替える作業が生じる

*コーディングと初期のメモ作成の作業

→1本の論文や修士論文・博士論文で実際に検討可能な量をはるかに超えるコードやメモが生じる

=体系的に管理できる環境をあらかじめ構築することが重要



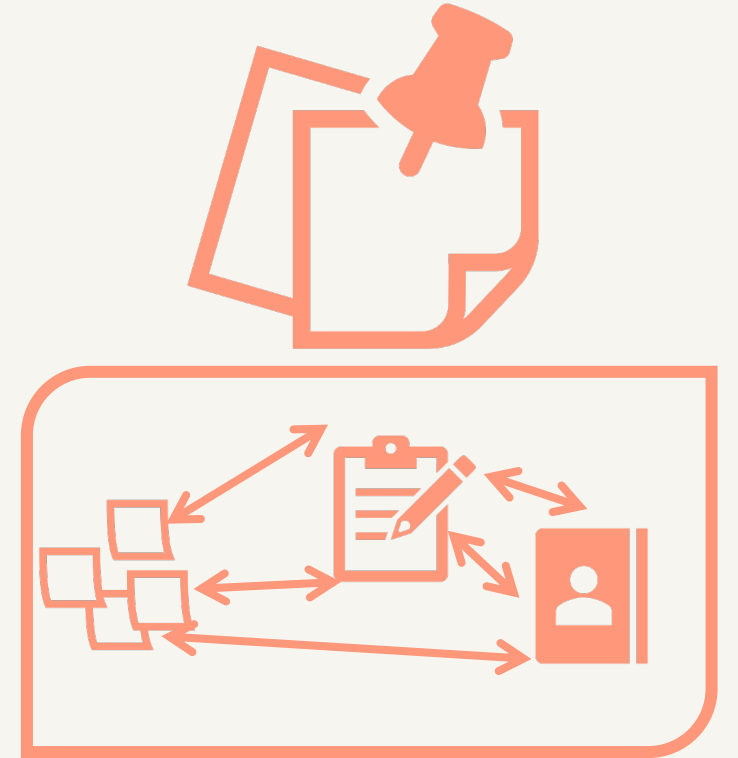
②分析段階で新たに生み出されるデータ

3) 統合的なメモ

3) 〈統合的なメモ〉:

分析が進むことでコード間やセグメント間、メモ間の関連から作られる、**より統合的な文書**。

コーディングされたフィールドノーツ間、それらのフィールドノーツから、つくられたセグメント間の関係性についてより吟味している。

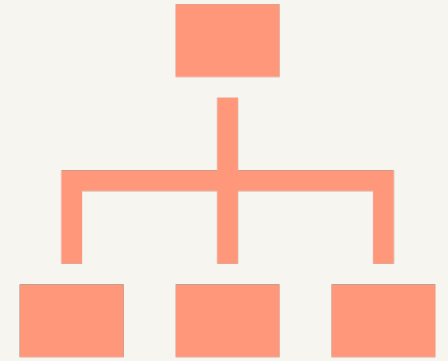


②分析段階で新たに生み出されるデータ

4) ダイアグラム

4) **分析を視覚化**したもの。いわゆるグラフ・
図表もダイアグラムの一種。

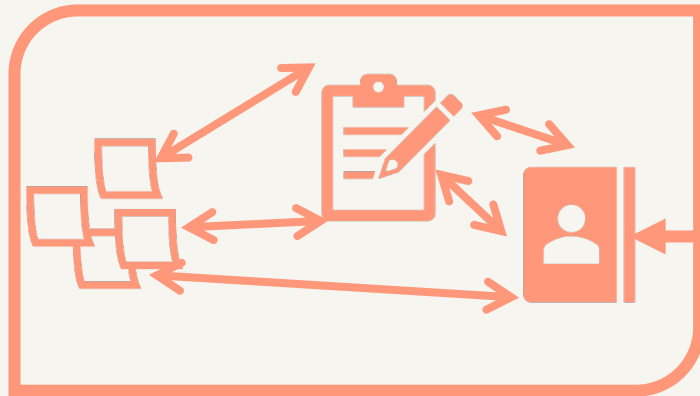
作成したダイアグラムは、元のフィールドノーツ、
セグメント、分析メモとの関連が識別可能な
方法で保管する



③ エスノグラフィの執筆に使われるデータ

1) 引用-注釈ユニットの作成

↓ エスノグラフィの一部



A氏はこのとき、筆者の目を見ながら真剣な表情で「あの土地は、~~~~なんだ」と語った [○年○月○日のフィールドノートより]

引用

この発言は、この地の歴史やA氏の生い立ちを踏まえると、こう考えられる。

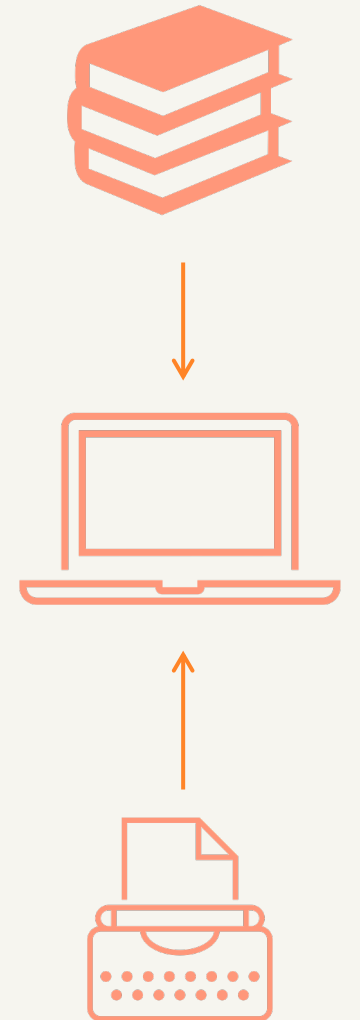
注釈

.....

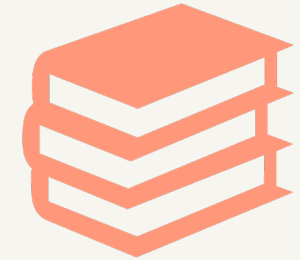
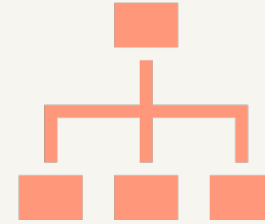
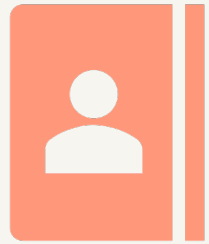
③エスノグラフィの執筆に使われるデータ

2) 文献データ、他の調査データ

- 文献管理データベースを活用し、文献データを管理する
 - e.g. 文献のPDFデータ、書誌情報などのメタデータ、文献についてのメモやタグなど
- 紙の文献をPDF化する際は、検索性を高める
 - PDF化する際はOCRでスキャンする。
 - 元の文献PDFデータの命名は識別可能な仕方で行う。
 - e.g. 「著者_刊行年_タイトルの要約、キーワードや中身の情報」など
 - 文献管理データベースでそのディレクトリを読み込むよう設定。



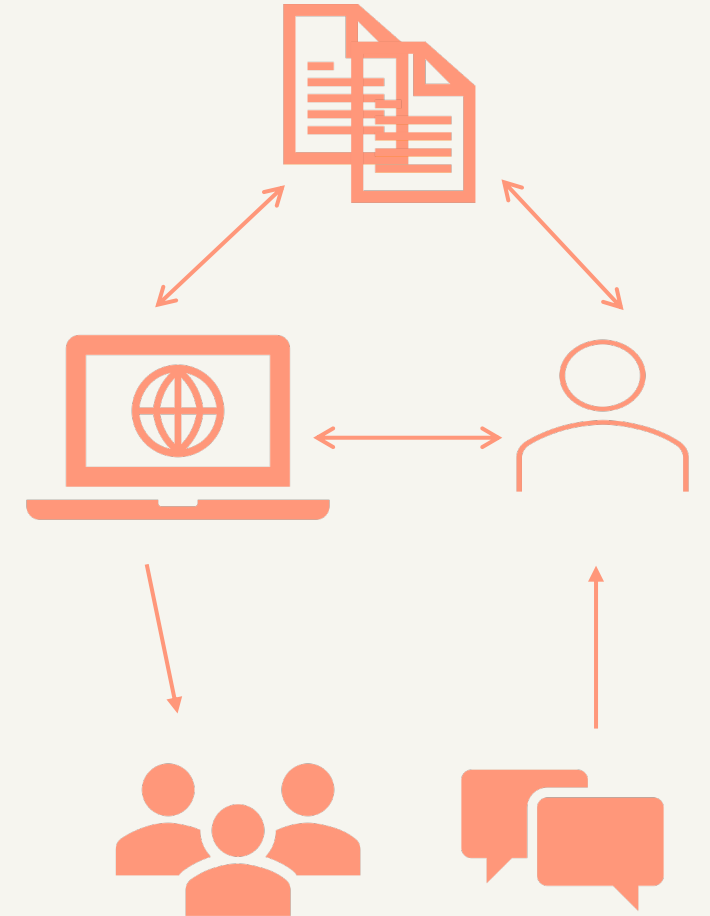
質的データ分析ソフトと研究データ



- こうした大量の研究データを管理するためのツールとして、質的データ分析ソフトがある。e.g. MAX QDA、NVivo
- 研究データの整理、コーディング作業やカテゴリ分けなどが簡便。

研究データ管理基盤の活用

- 研究データの限定的な共有
 - フィールドノート～引用～注釈ユニットの一部を教員やゼミ生と共有、分析セッション、それらを踏まえた論文作成に向けたバージョン更新
- 研究データ管理基盤を活用し、共有、管理、連絡、記録を効率的に行う
 - e.g. GakuNin RDM



研究データの共有と公開・利活用の可能性

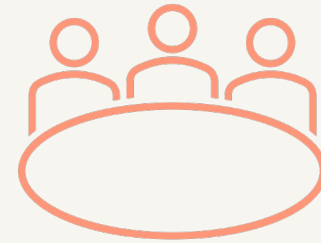
- 研究データを授業、異分野、実務分野と協働で用いる。

e.g. 病院や医療の現場、実験室



- ワークショップで再利用する。

e.g. 映像ワークショップ



- ポータルサイトを作成する。



➡ 講義5

参照資料

- エマーソン R., R. フレッツ & L. ショウ 1998『方法としてのフィールドノート——現地取材から物語作成まで』佐藤郁哉・好井裕明・山田富秋訳 新曜社.